

2026（令和8）年度
香川県立保健医療大学大学院
保健医療学研究科
博士前期・後期課程
臨床検査学専攻

学生募集要項

- 出願期日 2025（令和7）年10月1日（水）～10月8日（水）
- 試験期日 2025（令和7）年10月18日（土）



香川県立保健医療大学

The Graduate School of Kagawa Prefectural University of Health Sciences

博士前期課程

目 次

I 募集人員	1
II 選抜区分	1
III 出願資格	1
IV 事前相談	2
V 出願資格審査	2
VI 出願手続	4
VII 入学願書等の記入要領	10
VIII 選抜方法等	11
IX 合格発表	13
X 入学手続等	14
XI ホームページ	15
XII 問い合わせ先	16

保健医療学研究科

I 基本理念・目的	17
II アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー	17
III 博士前期課程(臨床検査学専攻)の概要	18
1 専攻の名称及び構成	18
2 学位の名称	18
3 教育目的・教育課程の特色	18
4 授業科目一覧	20
5 修了要件等	21
6 授業科目の概要	21

I 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	3人（社会人選抜を含む。）

II 選抜区分

「一般選抜」及び「社会人選抜」を行います。ただし、出願できるのはいずれか一方であり、出願後に選抜区分を変更することはできません。

III 出願資格

1 一般選抜

出願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び2026（令和8）年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2026（令和8）年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2026（令和8）年3月修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2026（令和8）年3月修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2026（令和8）年3月修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月までに学位を授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2026（令和8）年3月までに修了見込みの者
- (8) 学校教育法施行規則第155条第1項第6号の規定により文部科学大臣の指定した者
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2026（令和8）年4月1日までに22歳に達している者

- (11) 学校教育法第 83 条に定める大学に 3 年以上在学した者又はこれに準ずる者として学校教育法施行規則第 160 条に規定する者であって、本学大学院において、本学の所定の単位を優秀な成績で修得したと認める者

※ 出願資格(10)により出願を希望する者は、出願前に個別の出願資格審査が必要です(「V 出願資格審査」を参照してください。)

2 社会人選抜

出願できる者は、次の基準をすべて満たす者としてします。

- (1) 「1 一般選抜」の出願資格の条件を満たす者
- (2) 臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許を有する者
- (3) (2)の国家資格者として、通算 3 年以上の実務経験を有している者又は 2026 (令和 8) 年 3 月 31 日までに通算 3 年以上の実務経験が見込まれる者

※ 実務経験とは、医療機関並びに臨床検査学関係の教育・研究・行政機関での従事とします。詳細については、事前相談の際、教員に相談してください。

注 大学院設置基準に基づく授業時間などの特別措置

社会人の方が働きながら学べるよう、大学院設置基準第 14 条の規定により、必要に応じて、夜間、土曜その他特定の時間又は時期に授業・研究指導を行う途を設けています。

また、申し出により標準修業年限(2年)を超える一定期間の計画的な履修を認めることも可能としていますので、希望される方は、次の「IV 事前相談」による相談の際に、あわせて教員に相談してください。

IV 事前相談

出願を希望する者は、全員、出願前に入学後の研究等について、教員と相談することが必要です。事前相談をせずに出願することはできません。

希望する特別研究の専門領域と教員の選択に当たっては、臨床検査学特別研究(28～30ページ)の「講義等の内容」及び「担当教員」を参照してください。

事前相談の申込みは、2025 (令和 7) 年 8 月 5 日(火)～9 月 17 日(水)までに、香川県立保健医療大学事務局教務・学生担当(TEL087-870-1212)まで連絡し、希望する教員と事前相談を行ってください。なお、この申込みの受付時間は、午前 9 時から午後 5 時まで(土曜、日曜及び祝日を除く)とします。

また、次の「V 出願資格審査」を希望する者は、当該申請前まで(2025 (令和 7) 年 9 月 17 日(水)まで)に事前相談をすませておく必要がありますので、留意してください。

V 出願資格審査

一般選抜出願資格(10)(社会人選抜で一般選抜出願資格(10)に該当する者を含む。)で出願を希望する者は、あらかじめ、出願資格の審査を行いますので、「2 提出書類」を封筒(封筒表面に「保健医療学研究科出願資格審査申請書類在中」と朱書きしてください。)に入れ、「**簡易書留郵便**」で郵送又は持参してください。

1 申請期間

2025（令和7）年9月3日（水）から9月17日（水）まで

- ・郵送する場合 9月17日（水）**午後5時必着**とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜、日曜及び祝日は受け付けません。

2 提出書類

提出書類のうち、「大学ホームページからダウンロード」と記載のある書類は、本学ホームページ（<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/admission/>）からダウンロードして印刷・記入してください。

（「本学入試情報ページ」→「入学試験 大学院 入試について」→
「臨床検査学専攻 博士前期課程」→「募集要項・出願書類」）

(1) 一般選抜、社会人選抜共通

- ① 出願資格審査申請書(大学ホームページからダウンロード)
- ② 最終出身学校等の卒業(見込)又は修了(見込)証明書
- ③ 最終出身学校等の成績証明書又は調査書等(出身学校等の長が作成し、厳封したもの)
- ④ 審査結果通知返信用封筒(長形3号の封筒の表面に申請者の住所、氏名、郵便番号を記載し、460円分(簡易書留料金含む)の郵便切手を貼付したもの)

(2) 社会人選抜及び一般選抜出願資格(10)に該当する者のみ

- ① 在職期間証明書(大学ホームページからダウンロード)
- ② 免許証の写し(臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許証の写し(A4サイズに縮小のこと))

※1 上記書類の作成に際しては、「VI-2【STEP 4】提出が必要な出願書類等」の摘要欄及び「VII 入学願書等の記入要領」を参照してください。

※2 **申請書類受理後は、提出された書類は、理由のいかんを問わず返還しません。**

※3 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。

※4 郵便料金の改定が行われた場合は、新料金の切手を貼付してください。

3 提出先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

4 審査結果の通知

出願資格の審査結果は、本人あてに郵送します。

2025（令和7）年10月1日（水）までに届かない場合は、前記「3 提出先」に電話で照会してください。なお、認定された方は、所定の期間内に願書受付をしてください。

VI 出願手続

1 出願期間及び出願方法

2025（令和7）年10月1日（水）から10月8日（水）まで

- ・郵送する場合 10月8日（水）**午後5時必着**とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜、日曜及び祝日は受け付けません。

出願は、上記期間内に①「香川県電子申請・届出システム」でのインターネット出願登録、②入学選考料の納付、③出願書類等の提出によって完了します。（①②③のすべてを行わなければ出願が受け付けられません。）

※ 「香川県電子申請・届出システム」は、緊急の作業等のためシステムを停止する場合があるほか、受付期間終了の直前はシステムが混み合う可能性があるので、余裕をもって申し込みください。なお、使用される機器や通信回線上の障害等によるトラブルについては一切責任を負いません。

2 出願の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4	
出願前 の確認	・利用者登録 ・インターネット出願登録	入学選考料 の 納 付	出願書類等 の 提 出	・受験票の受取 ・受験

【STEP 1】出願前の確認

○必要なインターネットの環境

「香川県電子申請・届出システム」を利用してインターネット出願登録を行います。下記 URL 又は QR コードからアクセスしてください。なお、必要なインターネットの環境やシステムの使い方は、システム内の「ヘルプ」を参照してください。

香川県電子申請・届出システム

URL : https://apply.e-tumo.jp/pref-kagawa-u/offer/offerList_initDisplay

大学ホームページからもアクセスできます。

URL : <https://www.kagawa-puhs.ac.jp/admission/>

（「本学入試情報ページ」→「入学試験 大学院 入試について」→

「臨床検査学専攻 博士前期課程」→「インターネット出願登録を行う」）

香川県電子申請・届出システム	大学ホームページ
	

○印刷できる環境の確認

入学願書等のファイルを印刷する必要があるため、印刷できる環境が必要です。自宅にプリンターがない場合は、学校やコンビニエンスストア等の印刷できる環境を事前に確認してください。

【STEP 2】利用者登録・インターネット出願登録

※今後変更になる場合がありますので、最新情報は「香川県電子申請・届出システム」で確認してください。

○利用者登録

「香川県電子申請・届出システム」の「利用者登録」において、利用者情報を登録してください。利用者登録せずに、インターネット出願登録を行うことはできません。

- ・利用者登録説明を読み、同意して進んでください。
- ・利用者区分、メールアドレスを入力して、登録してください。
- ・登録後にメールが送信されますので、メールを確認し、記載された URL より利用者情報登録（パスワード、氏名、住所等）を行ってください。

○インターネット出願登録

「香川県電子申請・届出システム」にアクセスして、インターネット出願登録を行ってください。

「香川県電子申請・届出システム」の操作方法・不明点に関する照会先	・「香川県電子申請・届出システム」画面上段の「ヘルプ」をクリックし、操作方法を確認してください。 ・不明点がある場合は、「ヘルプ」をクリックし、「よくあるご質問」又は「ヘルプ一覧」から照会してください。
----------------------------------	---

- ・「手続き申込」の検索キーワード欄に「香川県立保健医療大学大学院」と入力し、手続き一覧に表示された「2026（令和8）年度香川県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 インターネット出願登録」をクリックしてください。
- ・（ログインしていない場合）「利用者登録」にて登録した ID・パスワードを入力して、ログインしてください。
- ・手続き説明をすべて読み、同意して進んでください。
- ・学生募集要項を参照しながら、下記項目を入力して確認へ進んでください。

■インターネット出願登録の注意事項

番号	入力項目	注意事項
1	志願課程等	○志願する課程・専攻・選抜区分を選択してください。

2	出願資格	○出願資格、学校名等及びその卒業年月を入力してください。 ○出願前の出願資格審査で認定を受けた者は、その認定番号を入力してください。 ○臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許を有している者は、その免許の種類、取得年月日及び免許番号を入力してください。
3	志願者情報	○顔写真は志願者本人の写真データをアップロードしてください。 【顔写真の規格】 ・無帽、正面、本人のみの上半身、背景なし、受験時に眼鏡を着用する場合は必ず眼鏡を着用して撮影されたもの ・縦横比がおおよそ4：3で撮影されたもの ・出願前6カ月以内に撮影したもの ・カラー・白黒のどちらでも可 ・ファイルサイズ：3MB 以内 ・ファイル形式：png、jpeg、jpg のいずれか ○住所は、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに入力してください。
4	合格通知送付先	○合格通知の送付先について、「現住所」と異なる送付先がある場合は入力してください。
5	納付情報	○希望する納付方法を選択してください。 ○選択した納付情報は、インターネット出願登録完了後は変更できません。

- ・「PDF プレビュー」で内容を確認し、修正が無い場合は、「申込む」をクリックしてください。
- ・申込完了画面が表示された後、「PDF ファイルを出力する」をクリックし、入学願書、写真票・受験票を**片面印刷**してください。

【STEP 3】入学選考料の納付

入学選考料は 30,000 円です。

下記いずれかの方法で納付してください。

○インターネット出願登録で「キャッシュレス決済」を選択した場合

- ・「香川県電子申請・届出システム」の「申込内容照会」をクリックし、手続き名「2026（令和8）年度 香川県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 インターネット出願登録」の「詳細」をクリックして納付へ進んでください。

- ・納付情報の「Omni Payment Gateway（NTT データ決済代行）でお支払い」をクリックし、決済方法を下記から選択して支払いへ進んでください。

（クレジットカード）

カード情報を入力すれば、決済が完了します。クレジットカードの名義人は志願者と同一である必要はありません。

（PayPay、au PAY、d 払い）

画面に従って操作を行うと、決済が完了します。

○インターネット出願登録で「普通為替証書を購入して送付」を選択した場合

「香川県電子申請・届出システム」での操作は終了となります。ゆうちょ銀行又は郵便局にて普通為替証書を購入し、出願書類等とともに提出してください。

※香川県電子申請・届出システムから納付することはできません。

【STEP 4】出願書類等の提出

志願者は、出願書類等を一括して封筒に入れ、「**簡易書留郵便**」で郵送又は持参してください。

○提出用封筒を準備

角形 2 号封筒を準備し、本学ホームページからダウンロードした「宛名シート①（出願書類等提出用）」を貼り付けてください。

○提出が必要な出願書類等

出願書類等のうち、下記の摘要欄に「大学ホームページからダウンロード」と記載のある書類は、本学ホームページ（<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/admission/>）からダウンロードして印刷・記入してください。

（「本学入試情報ページ」→「入学試験 大学院 入試について」→

「臨床検査学専攻 博士前期課程」→「募集要項・出願書類」）

出願書類等	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
入学願書	◎	◎	（香川県電子申請・届出システムからダウンロード） 入学願書を 片面印刷 してください。
履歴書	◎	◎	（大学ホームページからダウンロード） 「Ⅶ 入学願書等の記入要領」を参照して、必要事項を記入してください。
写真票・受験票	◎	◎	（香川県電子申請・届出システムからダウンロード） 写真票・受験票を 片面印刷 してください。

出願書類等	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
卒 業 ・ 修 了 (見 込) 証 明 書	◎	◎	最終出身大学等の長又は出願資格に該当する出身学校長が作成したものを提出してください。なお、本学を卒業見込の者は提出する必要はありません。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
成 績 証 明 書	◎	◎	最終出身大学等の長又は出願資格に該当する出身学校長が作成し、厳封したものを提出してください。 なお、成績証明書の成績欄に編入学等により認定されている科目がある場合には、編入学前の学校の成績証明書も併せて提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
学 士 の 学 位 授 与 (見込) 証明書等	○	○	「Ⅲ 出願資格」の1-(2)で出願する者が提出してください。 学位授与機構が発行する学士の学位授与(見込)証明書若しくは短期大学長又は高等専門学校長の発行する学位授与申請(予定)証明書を提出してください。
志 願 理 由 書	◎	◎	(大学ホームページからダウンロード) 本研究科への志望動機、志望専攻・コース・領域において希望する研究テーマを記入してください。
在 職 期 間 証 明 書	○	◎	(大学ホームページからダウンロード) 「Ⅲ 出願資格」の1-(10)又は社会人選抜で出願しようとする者が提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
承 諾 書	○	○	(大学ホームページからダウンロード) 在職のまま出願しようとする者は、所属長による承諾書を提出してください。
免 許 証 の 写 し	○	◎	「Ⅲ 出願資格」の1-(10)又は社会人選抜で出願しようとする者が提出してください。 臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許証の写しを A4サイズに縮小 してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
普通為替証書 (入 学 選 考 料)	○	○	入学選考料の納付方法で「普通為替証書を購入して送付」を選択した者は提出してください。 ※ 普通為替証書には何も記入しないでください。

出願書類等	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
証券送付書	○	○	(大学ホームページからダウンロード) 入学選考料の納付方法で「普通為替証書を購入して送付」を選択した者は提出してください。
受験票返送用封筒	◎	◎	(大学ホームページからダウンロード) 長形3号封筒を準備し、宛名シート②(受験票返送用)を貼り付けてください。宛名シートには、住所、氏名、郵便番号を記入し、切手を貼付してください。手続き完了後、受験票を返送します。
出 願 書 類 等 チェックシート	◎	◎	(大学ホームページからダウンロード) 出願書類等に不足がないか確認し、チェックして提出してください。
※1 ◎印は全員必須、○印は該当者のみ提出する書類です。 ※2 外国語で作成された書類には、必ず日本語訳を添付してください。それが困難な場合は、相談してください。 ※3 郵便料金の改定が行われた場合は、新料金の切手を貼付してください。 ※4 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。ただし、「V 出願資格審査」で提出した場合は不要です。 ※5 日本国籍を有しない者は、入学に際して、別途提出いただく書類があります。			

3 出願先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

4 出願上の注意

- (1) 出願書類等に不備がある場合は、受理できませんので、十分注意してください。
 - (2) 出願書類等に虚偽の記入をした者は、入学後であっても、入学許可を取り消すことがあります。
 - (3) **受理した出願書類等及び入学選考料は、理由のいかんを問わず返還しません。**
 - (4) インターネット出願登録完了後は、出願事項(志願課程等)の変更は認めませんので、注意してください。
 - (5) 出願手続を完了した者には、受験票を郵送します。
- なお、2025(令和7)年10月14日(火)になっても受験票が届かない場合は、前記「3

出願先」に電話で照会してください。

- (6) 障がいがある等、受験上特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある入学志願者は、2025（令和7）年9月17日（水）までに、あらかじめ前記「3 出願先」に連絡し、相談してください。
- (7) 出願書類から取得した個人情報は、入学試験に係る資料としてのみ利用し、取得した個人情報第三者に提供することはありません。

VII 入学願書等の記入要領

◎ 共通事項

- ・ ※印の欄には、記入しないこと。
- ・ ※印の欄を除き、各書類の注意事項等にそって必要事項を入力・記入すること。
- ・ 記入に当たっては、黒色のペン又はボールペンを使用し、楷書ではっきりと記入すること。パソコン入力可能な出願書類等については、パソコンで入力した書類等の提出を認めます。
- ・ 香川県電子申請・届出システム及び大学ホームページからダウンロードする出願書類等は、**A4用紙に片面印刷**してください。

○ 入学願書

- ・ インターネット出願登録後、志願者情報（氏名・住所・電話番号等）に誤りがあった場合は、該当箇所を二重線で消し、赤字で修正後の内容を記入すること。なお、香川県電子申請・届出システムでの登録内容の修正はできません。

○ 履歴書

- ・ 西暦で入力すること。
- ・ 学歴は、高等学校卒業から入力し、大学は学部・学科（課程・専攻）名まで入力すること。職歴がある場合は、勤務先等を入力すること。なお、欄が不足する場合は、別紙として添付すること。

○ 写真票・受験票

- ・ 写真票・受験票・確認事項は切り離さないで提出すること。

○ 出願資格審査申請書

- ・ 「フリガナ」は必ず記入すること。
- ・ 西暦で記入すること。
- ・ 「履歴事項」欄の「学歴」は、高等学校卒業から記入し、大学は学部・学科（課程・専攻）名まで記入すること。職歴がある場合は、勤務先等を記入すること。なお、欄が不足する場合は、別紙として添付すること。

また、臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許を有している者は、「免許」欄に取得年月日及び免許番号を記入すること。

- ・ 「現住所」及び「審査結果通知先」欄は、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに記入するとともに、郵便番号を必ず記入すること。また、提出後に変更があった場

合は、直ちに連絡すること。

なお、「審査結果通知先」が「現住所」と同じ場合は、「同上」と記入すること。

- ・ 誤って記入した場合は、該当箇所を二重線で消し、赤字で修正後の内容を記入すること。

上記の他、各書類等に記載している注意事項に従って記入すること。

VIII 選抜方法等

入学者の選抜は、学力試験（専門科目、英語）及び面接の結果並びに出願書類等を総合して、総合得点で可否を判定します。

なお、総合得点が高点の場合は、専門科目の点数が高い者を優先します。

1 試験科目等

科目等	配点	備考
専門科目	200	専攻に関する問題
英 語	100	英和辞書1冊の持込可（電子辞書は不可）
面 接	100	個人面接

※ 配点は、一般選抜と社会人選抜では異なります。

区 分	科目等	配 点
一 般 選 抜	専門科目	200
	英 語	100
	面 接	100
	合 計	400
社 会 人 選 抜	専門科目	225
	英 語	75
	面 接	100
	合 計	400

※ 社会人選抜は、一般選抜と同様に、専門科目は200点満点、英語は100点満点で採点し、専門科目を1.125倍とし、英語を0.75倍とします。

2 試験日程（一般選抜・社会人選抜共通）

試 験 日	試験科目等	時 間
2025（令和7）年 10月18日（土）	受 験 者 集 合	9:00
	注意事項等連絡	9:00 ～ 9:15
	専 門 科 目	9:20 ～ 10:50
	英 語	11:10 ～ 12:10
	昼 食	12:10 ～ 13:00
	受 験 者 集 合	13:00
	面 接	13:10 ～

3 受験上の注意事項

- (1) 入学試験当日は、午前9時までに試験室に入り、受験票を机の上に置いて着席してください。
なお、受験票を忘れた場合は、係員に申し出て指示を受けてください。
- (2) 集合時間に遅刻した場合は、学力試験開始後30分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長及び面接試験における遅刻は認めません。
なお、面接は受験者ごとに開始時間が異なりますので、注意してください。
また、学力試験を受験しなかった者は、面接を受けることはできません。
- (3) 試験会場では、監督者の指示に従ってください。
- (4) 机の上には、受験票・HB又はBの鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・時計（計時機能だけのもの）・英和辞書1冊（英語の試験のみ（電子辞書の持込みは不可））以外のものは置かないでください。
- (5) 携帯電話、スマートフォン等は、電源を切ってカバンの中にしまっておいてください。
- (6) 昼食（飲み物を含む）は各自で準備してください。学内の自動販売機は利用できません。

4 試験会場

香川県立保健医療大学

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

※1 試験会場は、最終ページの**入学試験会場案内図**を参照してください。

※2 試験会場の下見はできますが、建物内への立入りはできません。

※3 合否電報・電話の取扱い等の勧誘をする者があっても、**本学とは一切関係がありません。**

Ⅸ 合格発表

1 発表日・発表方法

2025（令和7）年10月24日（金）午前9時に、香川県立保健医療大学 アプローチ広場掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には、文書で通知します。

また、本学のホームページ（<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>）上においても、合格者受験番号を掲載します（同日午前9時過ぎの予定）。

なお、ホームページ掲載は、本学が情報提供の一環として行うものであり、公式の合格発表は、本学掲示板、合格通知書で行います。

2 追加合格

入学手続き者が入学定員に満たなかった場合には、追加合格を行うことがあります。

追加合格は、2025（令和7）年10月31日（金）午後5時以降、該当者あてに入学願書に記載された連絡先に電話で通知します。この電話連絡は、2025（令和7）年11月4日（火）までに行うよう配慮しますので、この期間は、入学願書の連絡先に所在する等、本人と直接連絡が取れるようにしておいてください。

なお、追加合格者の入学手続等については、追加合格通知時に指示します。

3 その他

- (1) **電話等による合否の問い合わせには、一切応じません。**
- (2) 合否以外の受験に関する問い合わせは、志願者本人が行ってください。
- (3) 入学試験成績の情報提供については、受験者本人の請求に基づき、次の要領により提供します。

- ・請求期間

2025（令和7）年10月24日（金）～2025（令和7）年11月25日（火）（土曜、日曜及び祝日を除く。）

- ・提供内容

科目別得点及び総合得点

- ・請求方法

受験者本人が、本学事務局窓口の本学の受験票を持参のうえ、請求してください。（受付時間は、9：00～12：00 及び 13：00～17：00 です。）

X 入学手続等

1 入学手続の期間

2025（令和7）年10月29日（水）から10月31日（金）まで

- ・郵送する場合 10月31日（金）**午後5時必着**とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。

2 手続場所

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当（TEL 087-870-1212）

3 入学手続

- (1) 上記2の場所へ、「4 提出書類等」を一括し、簡易書留扱いの郵便又は直接持参により提出してください。
- (2) 上記1の期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱います。
- (3) 入学手続を行うのは、代理人でも差し支えありません。
- (4) **入学金は、納入後、理由のいかんを問わず返還しません。**
- (5) 詳細については、合格通知時に通知します。

4 提出書類等

- (1) 誓約書(本学所定様式)
- (2) 卒業(修了)証明書(卒業(修了)見込みで受験した者は、卒業(修了)証明書を別途指示する日までに提出すること。)
- (3) 学位授与証明書(学位授与見込みで受験した者は、別途指示する日までに提出すること。)
- (4) 入学金の領収書のコピー
- (5) 縦4cm×横3cmの同じ写真2枚(正面上半身無帽、背景なし、最近6か月以内に撮影したもの、カラー、裏面に専攻名・氏名を明記したもの)
- (6) ア 本人が2025（令和7）年4月1日以前から香川県内に住所を有している場合
本人の住民票（マイナンバーの表示がないもの）
イ 本人の配偶者又は一親等の親族が2025（令和7）年4月1日以前から香川県内に住所を有している場合
配偶者又は一親等の親族の住民票（マイナンバーの表示がないもの）及び本人との関係を証明する戸籍抄本

5 入学金（予定金額）

- (1) 県内者 197,400 円
- (2) 上記以外の者 366,600 円

※ 「県内者」とは、2025（令和7）年4月1日以前から引き続き香川県内に住所を有する者並びにその配偶者及び一親等の親族をいいます。

6 授業料（予定金額）

- (1) 年額 535,800 円
- (2) 各年度に係る授業料は、前期及び後期の2学期に区分して納付するものとし、それぞれの学期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とします。
 - ① 前期納付期限 4月末日 (267,900 円)
 - ② 後期納付期限 10月末日 (267,900 円)
- (3) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな授業料が適用されます。

7 授業料等減免制度

経済的理由その他やむを得ない事情により授業料等の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀であると認めた学生に対し、授業料等の全部又は一部を免除する制度等があります。

8 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構による奨学金には、第一種奨学金（無利子）と第二種奨学金（有利子）の制度があります。

- ・ 第一種奨学金

特に優れた学生で経済的理由により著しく修学に困難がある者

貸与月額（2025（令和7）年度） 50,000 円、88,000 円のうち希望額を選択

- ・ 第二種奨学金

優れた学生で経済的理由により修学に困難がある者

貸与月額（2025（令和7）年度） 50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円、150,000 円のうち希望額を選択

※ 詳細については、独立行政法人日本学生支援機構ホームページ(<http://www.jasso.go.jp/>)を確認ください。

9 その他の必要経費等

入学後には、教科書、教材等に係る経費及び後援会費等が別途必要になります。

後援会費については次のとおりです。

- ・ 年会費 20,000 円
- ・ 教材用経費等 2年間分 30,000 円
- ・ 納付期限 4月末日（年会費は、2年次も必要です。）

なお、学生は傷害事故及び賠償事故等についての保険に加入しますが、当該保険料は後援会費の中から負担します。

10 その他

学生寮はありません。

XI ホームページ

大学案内や入試情報を掲載したホームページを開設しています。

URL <https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>

XⅡ 問い合わせ先

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当
〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

Fax 087-870-1202

I 保健医療学研究科の基本理念・目的

人々の健康と自立の支援を基本理念として、保健医療の分野においてより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、包括的な判断能力と指導力を有する高度専門職業人を育成することにより、保健・医療・福祉が連携した質の高い総合的サービスを提供し、高度な専門知識を持ち、新規かつ独創的な研究成果を発信する研究能力を持つ教育者・研究者を育成することにより、地域保健医療の質向上、人々の健康増進、ひいては、健康長寿社会の推進や次世代育成支援に寄与する。

II 臨床検査学専攻のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

1 アドミッションポリシー

本学大学院保健医療学研究科臨床検査学専攻では、基本理念・目的を達成するため、次のような資質を備えた人を求めています。

- (1) 生命を尊重し、いたわりの心をもつ人
- (2) 臨床検査に関する基本的な知識・技能・態度を有している人
- (3) 臨床検査学の領域におけるさまざまな課題についてリサーチマインドを持って探究し、解決に努力する人
- (4) 新たな臨床検査技術の開発に向けた研究を行いたい人

2 カリキュラムポリシー

保健医療学研究科の教育目的、臨床検査学専攻の教育目的に則って、臨床検査技師の役割と機能が拡大・多様化するなかで、高度先進医療への対応と新しい検査技術の開発、チーム医療、地域包括ケアシステムに貢献できる高度専門職業人としての臨床検査技師を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

臨床検査学専攻は、病態機能検査学及び病因解析検査学の2領域で構成する。

専門共通科目 12 単位以上(先端医療学、保健医療福祉論、チーム医療特論の必修 6 単位、選択 6 単位以上)、専門領域科目 8 単位以上(選択した特別研究が属する領域科目から特論 2 単位及び演習 2 単位、さらに他の領域科目も含め 4 単位以上)、特別研究 10 単位の合計 30 単位以上を修得とする。

- (1) 病態機能検査学領域では、神経系、循環器、呼吸器、腎機能など種々の生理機能検査や病理学的・細胞学的検査に基づく病態の解析法について、より専門性を深め、病態を解析・診断するための臨床検査学について学修する。
- (2) 病因解析検査学領域では、病原微生物、生体防御に関わる免疫系、生体の代謝に重要な生化学的マーカー、遺伝子・染色体及びその関連物質等、病気を引き起こす要因について、より専門性を深め、病因を解析するための臨床検査学について学修する。
- (3) 食品などの健康科学分野における科学的な検証システムの構築などを通して人々の健康志向への対応や、社会医学分野における保健医療福祉に貢献できる方法について学修する。
- (4) 膨大な量の検査情報を効率よく管理し、病態解析や病因解析に有効に利用するための検査情報管理法や検査部の管理運営法についても専門性を深め、検査部門における管理指導的役割について学修する。
- (5) 特別研究は、研究課題となる専門領域科目の特論と演習における学修に連動した研究を遂行し、専門性を深く探究した修士論文を完成させる。

3 ディプロマポリシー

修了要件となる単位を修得するとともに、必要な研究指導を計画的に受けた上で修士論文を作成し、本研究科が行う修士論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格し、下記の条件をすべて満たす者に臨床検査学の修士学位を授与する。

- (1) 国際専門誌の読解力を備え、全国学会でも 研究を発表する能力があること。
- (2) 研究テーマに自主性や独創性があり、研究仮説の立案から実証までのすべての過程の説明能力を有すること。

入試区分	募集人数	選抜方法	評価内容 点数	学力の3要素	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働して学ぶ態度
				アドミッション・ポリシー	臨床検査に関する基本的な知識・技能・態度を有している人	臨床検査学の領域におけるさまざまな課題についてリサーチマインドを持って探究し、解決に努力する人	・生命を尊重し、いたわりの心をもつ人 ・新たな臨床検査技術の開発に向けた研究を行いたい人
				評価項目	臨床検査技師として備えるべき基礎学力を有する。科学技術に対応する技能をもつ。	論理的な思考力がある。科学的な判断力をもつ。適切な表現力がある。	責任感と協調性を兼ね備える。主体的に協働して学ぶ態度があり行動できる。
博士前期	3名	専門科目	200 (比重*:50)		○	○	
		英語	100 (比重*:25)		○	○	
		面接	100 (比重*:25)		○	○	○

*合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)

Ⅲ 博士前期課程（臨床検査学専攻）の概要

1 専攻の名称及び構成

研究科名	専攻名	領域名
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	病態機能検査学領域
		病因解析検査学領域

2 学位の名称

修士(臨床検査学)：臨床検査学専攻の各領域の課程修了者

3 教育目的・教育課程の特色

(1) 臨床検査学専攻の教育目的

次の能力を修得することを目的とする。

- ① 臨床検査学の特定の領域や遺伝子診断などの先進医療において、その専門性をこれまで以上に追究し、より高度な学術理論と実践能力をもってチーム医療の場で指導的役割を担う能力
- ② 輸入感染症や新興・再興感染症への対応、生活習慣病の予防など、国際協力活動や地域の要請に応じた保健医療活動を展開する能力
- ③ 環境・食品などの健康科学における科学的な検証システムの開発など、人々の健康増進に貢献する能力
- ④ 優れた臨床検査技師の養成や社会人教育、また新しい検査技術や機器の開発など、臨床検査学の発展に貢献する教育・研究能力

(2) 臨床検査学専攻の教育課程の特色

臨床検査学専攻は、病態機能検査学及び病因解析検査学の2領域とした。

- ① 病態機能検査学領域では、神経系、循環器、呼吸器、腎機能など種々の生理機能検査や病理学的・細胞学的検査に基づく病態の解析法について、より専門性を深め、病態を解析・診断するための臨床検査学を探究する。また、種々の生体機能と病態との関わりについても学問的関心を深め、新しい検査技術の開発や学問の発展に貢献するとともに、高度先進医療やチーム医療の場で指導的役割を果た

すことができる能力を学修する。

- ② 病因解析検査学領域では、病原微生物、生体防御に関わる免疫系、生体の代謝に重要な生化学的マーカー、遺伝子・染色体及びその関連物質等、病気を引き起こす要因について、より専門性を深め、病因を解析するための臨床検査学を探究する。また、新たな検査診断法を開発できるような研究能力と高い技術力を養い、この分野における学問の発展と高度先進医療に貢献できる高度専門職業人を養成する。さらに、これらの技術力を生かし、チーム医療、感染症対策、アレルギー対策、生活習慣病の予防など、地域の保健医療活動で指導的役割を担うことができる能力を学修する。
- ③ 膨大な量の検査情報を効率よく管理し、病態解析や病因解析に有効に利用するための検査情報管理法や検査部の管理運営法についても専門性を深め、検査部門で管理指導的役割を果たすことができる能力を学修する目的で、専門共通科目に「検査総合管理学」と「医療情報管理学」を配置した。

4 授業科目一覧

科目 区分	授業科目の名称		配当 年次	単位数		授業形態			備考
				必修	選択	講義	演習	実験・実習	
専門共通科目	先端医学論		1 前	2		○			オムニバス※
	保健医療福祉論		1 前	2		○			
	チーム医療特論		1 後	2		○			オムニバス※
	生命・医療倫理論		1 後		2	○			※
	検査総合管理学		1 後		2	○			オムニバス
	医療情報管理学		1 後		2	○			
	食理学		1 前		1	○			
	検査研究方法論		1 後		1	○			オムニバス
	小計(8 科目)		－	6	8	－			
専門領域科目	病態機能検査学領域	生体機能検査学特論	1 前		2	○			
		生体機能検査学演習	2 前		2		○		
		病態解析検査学特論	1 前		2	○			
		病態解析検査学演習	2 前		2		○		
		病理病態検査学特論	1 前		2	○			
		病理病態検査学演習	2 前		2		○		
		血液病態検査学特論	1 後		2	○			
		血液病態検査学演習	2 前		2		○		
		神経生理機能検査学特論	1 前		2	○			
		神経生理機能検査学演習	2 前		2		○		
	小計（10 科目）		－	0	20	－			－
	病因解析検査学領域	病原因子検査学特論	1 後		2	○			
		病原因子検査学演習	2 前		2		○		
		生体防御検査学特論	1 後		2	○			
		生体防御検査学演習	2 前		2		○		
		生体化学検査学特論	1 後		2	○			
		生体化学検査学演習	2 前		2		○		
		遺伝子検査学特論	1 後		2	○			
		遺伝子検査学演習	2 前		2		○		
小計(8 科目)		－	0	16	－			－	
特別研究科目	臨床検査学特別研究		2 通	10			○		
	小計(1 科目)		－	10	0	－			
合計(27 科目)				16	44	－			－

備考欄の※は看護学専攻との合同授業科目

5 修了要件等

専門共通科目 12 単位以上（必修 6 単位、選択 6 単位以上）専門領域科目 8 単位以上（選択した特別研究の属する領域科目から特論 2 単位及び演習 2 単位、さらに他の領域科目も含め 4 単位以上）及び特別研究 10 単位の合計 30 単位以上を修得する。加えて必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

6 授業科目の概要

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門 共通 科目	先端医学論	近年、医学における技術の進歩は目覚ましいものがある。医療の現場に最新の技術が導入された場合、医療従事者として円滑に対応していく必要がある。本講では、注目されている先進医学のトピックス、導入に際しての課題、将来の展望などを学習し、医療現場において先進的医療にも対応できる資質を高めることを目標とする。 （オムニバス方式/全 15 回） 先端医学総論 5 回 岡田 仁 先端医学各論 10 回 古山達雄、奥田 潤、平川栄一郎、樋本尚志、多田達史	教授 古山達雄 教授 奥田 潤 教授 平川栄一郎 教授 樋本尚志 教授 多田達史 教授 岡田 仁
	保健医療福祉論	少子高齢社会において人生の最期まで住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域包括ケアシステムの構築、さらには制度・分野ごとの関係を超え、地域住民や地域の多様な主体が我がこととして、人と資源が世代や分野を超えて地域を共に創る地域共生社会が求められている。地域包括ケアシステム構築や地域共生社会の実現には、保健・医療・福祉の基盤となる制度や法律、各専門職や地域の役割に対する理解、連携・協働する実践力が求められる。そのため、保健・医療・福祉の基本的な制度や政策、チームとしての連携協働のあり方や基本概念について学修する。実際の活動事例を通して地域課題を検討するとともに、自己の専門職としての役割やあり方を探究する。 （オムニバス方式/全 15 回） 保健医療福祉論総論 5 回 岡田 仁 保健医療福祉論各論 10 回 岡田 仁、岡田麻里	教授 岡田 仁 准教授 岡田麻里
	チーム医療特論	より建設的なコラボレーションや創造的な医療現場を作することを目的に、超メタ理論としての構造構成主義の中核概念である関心相関性の原理を学習する。さらに、不毛な対立を克服し建設的に対立する信念対立解明アプローチの理論と技法を学び、医療現場における信念対立を解明し、より妥当な判断を生み出していくことを具体的な事例を交え探究する。	教授 多田達史 准教授 森田公美子

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門 共通 科目	生命・医療倫理論	バイオサイエンス及び医療に従事する研究者、高度専門職業人は、人権、生命倫理に十分な配慮を行いながら、医療を実践して行かなければならない。生命科学の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題、古くから解決の難しい医療倫理の問いについて、包括的にあるいは個別に、基礎知識や基本的考え方を学ぶ。事例を用いたグループワーク、討議、ロールプレイ等の手法も用いることで、「正解」を見つけにくい問いの前で、それでも考え続けることが倫理の本質であることを学ぶ。	教授 植村裕子 教授 岡田 仁 准教授 大栗聖由 非常勤講師 塩田敦子
	検査総合管理学	科学的根拠に基づく検査管理能力を養うため、検査室運営法、検体の採取からデータ報告に至るまでのリスクの発生とそれを防止するための考え方や対処法について学習する。また、医療体制の変化により、より質の高い医療が求められるようになり、国民の医療への期待は大きい。そのため、医療経済、医療保険制度、地域医療、医療サービスにおける患者の満足度、マーケティング、経営戦略などを通して医療経営の課題と問題解決法を学ぶ。 (オムニバス方式/全 15 回) (徳原康哲/7 回) 高齢化社会や疾病構造の変化に対応した将来の病院の在り方やチーム医療における臨床検査技師の新しい役割について、医療保険制度および経営戦略等の観点から科学的に考察し、今後求められる臨床検査の管理体制を学ぶ。 (多田達史/8 回) 検査管理学の概論、検査室と病院組織との関連、検査室の組織と運営方法、精度管理の概論、分析方法の評価、分析状態やデータ出力管理、個人・集団データからのアプローチ方法、検査データの見方と説明、救急時における緊急検査への対応などについて学ぶ。	教授 多田達史 准教授 徳原康哲
	医療情報管理学	医療情報は疾患の予防、診断、治療に不可欠であり、その管理は重要である。また、医療情報システムの発展とともに医療情報の利用範囲も広がりつつある。このような状況の下、電子カルテ等の医療情報を取り扱う重要性や管理方法、そして倫理的配慮を学ぶ。さらに、患者から得られた医療情報の解析法や、臨床研究や新規検査臨床検査法の開発に発展させる方法について学ぶ。	准教授 徳原康哲 講師 太田安彦
	食理学	生命活動を維持するためには食品を摂取しなければならない。新たな食品の開発が急速に発展するなか、食品に含まれる各栄養素を把握し、食品を選択・摂取することが求められる時代となっている。本講義では、食品中に含まれる各栄養素が人体にどのような作用を及ぼすかについて、科学的な根拠から考え、作用機序を学ぶことで食の機能を理解する。さらに、文献検索により栄養素の各分析法を調べ、得られたデータの評価方法について学ぶ。	准教授 徳原康哲 講師 太田安彦

科目 区分	授業科目の名称	講座等の内容	担当教員
専門 共通 科目	検査研究方法論	保健・医療分野の研究方法について基本的な構成を学び、自らが研究課題に対して解決できる能力を養う。具体的には、最初に研究方法の概要（研究計画の立て方、サンプルの収集法、研究の実施法、研究結果の分析法、研究成果のまとめ、資料の記録）を学び、トピックス・研究課題の見つけ方、文献検索法、仮説の立て方、研究デザイン法、データの収集とデータ解析法について修得し、得られた成果を論文として作成する方法や学会発表等で表現できる能力を養う。 （オムニバス方式/全7回） （池亀彰茂/4回）研究の具体例を紹介し、課題の見つけ方、文献検索、資料の整理、研究目的や仮説の考え方、研究方法の選択の仕方や研究デザインを学ぶとともに、倫理規程や人権問題についての知識を修得する。 （多田達史/3回）研究者として必要なデータ収集と測定及びデータの統計解析の手法、論文の作成方法、学会での発表やスライド作成の方法、論文の投稿や投稿規程、課題の発表方法について学ぶ。	教 授 多田達史 准教授 池亀彰茂

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門領域科目	病態機能検査学領域	生体機能検査学特論	生体機能検査学は、リアルタイムな生体情報を画像や波形で描出する種々の検査法や評価法を学ぶことができ、疾患の早期発見や早期治療に貢献することができる。そのため、循環機能検査、呼吸機能検査、神経生理学的検査、画像検査について基礎的な能力を学ぶことを目的とする。また、種々の検査が遂行できる知識や検査結果の評価法についても学習する。さらには、臨床現場で遭遇する病態に応じて適切な検査法が選択できるよう、最新の病態解析法についても学習する。	准教授 大栗聖由
		生体機能検査学演習	まず、特論で学んだ知識をもとに、循環機能検査、呼吸機能検査、神経生理学的検査、画像検査で明らかになる疾患の病態生理を十分理解し、その基盤の上に立ち病態の本質に迫る基礎的研究能力の習得を目指す。そして、国内外の先行研究の文献抄読や研究課題をみつけ、その研究に必要な検査手法、解析法等について理解を深め、演習を通じて臨床に役立つ安全でエビデンスのある臨床的研究能力を自ら導き出せるような能力を養うことを目的とする。	准教授 大栗聖由
		病態解析検査学特論	本授業では自己抗体の臨床的意義について理解を深める。まず、自己抗体の産生される機序、自己抗体の測定法やその判定法について理解する。次に、自己抗体は診断的意義のみならず、疾患の活動性や予後、治療効果の予測などを反映することもあり、どのような時に自己抗体を測定すべきかについても理解する。さらに、自己抗体は自己免疫疾患のみならずウイルス性疾患や悪性腫瘍など様々な疾患で検出されており、そのような疾患における自己抗体測定の有用性についても学習する。	教 授 樋本尚志
		病態解析検査学演習	「肝疾患における自己抗体の有用性」についての最新の研究論文を抄読することによって、病態解析検査学特論で学習した「自己抗体測定の臨床的意義」についての理解をさらに深めるべく演習を行う。また、今後の研究課題に対して必要な実験的手法や臨床的な解析方法、さらには統計処理などについても、この演習を通じて網羅的に習得する。	教 授 樋本尚志
		病理病態検査学特論	本講義では、病理学は臨床医学と基礎医学を結びつける重要な役割を担う学問であるという視点から、疾病における肉眼的および顕微鏡的な形態変化の理解を深めることを主眼とする。具体的には、病理学および細胞診断学的な基礎能力を涵養するとともに、疾患の形態学的変化と、それに密接に関連する生理学的・生化学的变化とを有機的に統合し、病気の成因、発生メカニズム、そして病理病態に関する広範な知識の習得を目指すものである。さらに、これらの病態解析に不可欠な形態学的研究手法や、分子病理学的な解析アプローチについても詳細に解説する。	教 授 水津 太

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門領域科目	病理病態検査学演習	本演習では、疾病に伴う細胞、組織、臓器の形態学的変化の解析に加え、特に腫瘍の前癌病変から悪性腫瘍へと進展する過程における変化に着目し、分子病理学、生化学、分子生物学的な多様な手法を用いた多角的な解析法を基盤とした研究内容の見識を深める。具体的には、国内外の最新研究論文の抄読を通じて、腫瘍の発生および発癌のメカニズムについて詳細な検討を行う。さらに、得られた知見を臨床における病理病態検査の鑑別診断に応用するための理論的かつ実践的な理解を追求する。これらの演習を通して、疾病の本質に対する深い洞察力を涵養し、分子病理病態学的な視点から腫瘍の本質について積極的に探求する能力を育成することを目的とする。	教授 水津 太
	血液病態検査学特論	血液疾患の成因、病態、病理像（血液、造血組織、細胞学的、分子学的）を深く追究理解し、疾病の本態について探求する。また、血液検査学の基礎的検査法のみならず、疾患の診断や治療の指標に直結する特異的な検査法について学習するとともに、検査法の応用例、発展性、先端の検査法技術について学習する。これらの知識をもとに、実践現場における血液疾患の予防、早期発見、治療、病態解析における有用な血液検査法について考察する。	准教授 池亀彰茂
	血液病態検査学演習	特論で学習及び考察した実践現場において有用である検査法について討議し、技術理解を深めるとともに、必要な検査法については実習を行う。また、国内外の血液病学・血液検査学に関連する論文分析を行い、研究の動向や方法を習得する。さらに論文解析から血液検査学領域における問題点を探究し、討議するとともに、検査法の応用方法を習得する。新しい検査法の考案などの臨床指向型研究を進行できる総合的判断能力及び研究者としての資質の養成を目的とする。	准教授 池亀彰茂
	神経生理機能検査学特論	神経系の構成と生理機能について基本的な知識を整理したのちに、代表的な神経精神系の疾患について原因、診断、検査法や治療法についての基本的な事項を学習する。さらにこれらの疾患について、近年明らかになってきた知見、そこで用いられた研究手法や新たな検査法などについて学ぶ。	教授 古山達雄 講師 新美健太
	神経生理機能検査学演習	特論で学習したことを基に、最初に履修者は各疾患についての基本になる総説を抄読して紹介する。その後、各自が興味のある疾患についての最新の知見を報告している文献を検索し抄読する。その過程で、その研究の意義、研究手法、研究の組み立て方などを学習し、自分の研究にどのように取り入れるかなどをレポートにまとめて発表する。これらの演習を通して一般的な研究能力を養う。	教授 古山達雄 講師 新美健太

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門領域科目	病因解析検査学領域	病原因子検査学特論	病原微生物による感染症の発症機序や病態解析についての理解を深める。特に感染症の主要な原因となる病原因子の作用機序についての学習を通して、病原因子の本体を探る研究や検査の実態を把握するとともに、新しい検査方法を開発するための基礎的能力を養う。最終的に各論で学習した内容を踏まえて、与えられた課題についてのレポートを作成し、理解を深め、さらに考察する。	教授 奥田 潤 講師 末澤千草
		病原因子検査学演習	感染症を引き起こす病原微生物による様々な病原因子について、その特性や作用機序などを多くの研究論文をもとに学習し、感染症の予防や検査方法の開発につながる知識を深めることを目標として演習を行う。具体的には、配布した研究論文を講読した後、レポート及び口頭試問を行う。さらに、最終的に興味のある研究論文についてまとめを作成し口頭発表を行うことで、発表スライドの作成法や口頭発表の仕方について再確認する。	教授 奥田 潤 講師 末澤千草
		生体防御検査学特論	生体防御システムで重要な自然免疫と獲得免疫に関わる免疫細胞における生体防御機構とエフェクター機能について学習するとともに、免疫関連疾患の原因物質を簡便で的確に診断することが可能な検査法の開発能力を養う。そのため、抗原抗体反応理論、抗体の構造と機能、抗体の分離精製法、標識法など、高感度免疫測定法に関わる内容について理解する。	准教授 宮川朱美
		生体防御検査学演習	特論で学習した検査法が臨床現場においてどのように応用されているかについて討議し、技術理解を深めるとともに、必要な検査法については実習を行う。また、国内外の免疫学・臨床免疫検査学に関連する論文分析を行い、研究の動向や方法を習得する。加えて、最終的に興味のある研究論文についてまとめを作成し口頭発表を行うことで、発表スライドの作成法や口頭発表の仕方について再確認する。	准教授 宮川朱美
		生体化学検査学特論	現在では生活環境、社会生活から受けるさまざまなストレスが原因となり、生体の恒常性が破綻し、各種疾患の原因になっている。また、高齢化等により各種疾患も複雑化し、その病因の解析が要求されるようになった。その中で脂質代謝を取り上げ、脂質代謝の基礎的知識を十分に理解し、動脈硬化性疾患と脂質代謝が病態生理にどのような関わっているかを学ぶ。また酸化・糖化などの変成物質の関連性について理解を深める。さらに動脈硬化と生活習慣や食品との関係について学習する。	教授 多田達史 准教授 徳原康哲 講師 太田安彦

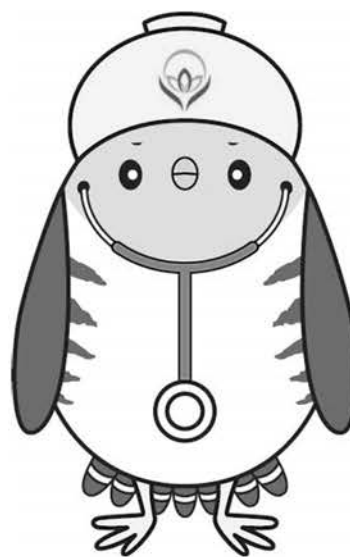
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門 領域 科目	病因 解析 検査 学 領域	生体化学検査学演習	生体化学検査学演習においては、動脈硬化とリポ蛋白代謝や糖代謝に関連する異常リポ蛋白質の関係について考察し、糖尿病やメタボリックシンドロームにおける脂質代謝異常症について学習する。また、国内外の糖尿病合併症を含む動脈硬化に関連した文献調査を行い、臨床化学領域における検査法を学習するとともに、その問題点を理解する。さらに、異常リポ蛋白質、糖化蛋白、終末糖化産物（AGEs）の検出について、研究の視点や分析方法について理解を深め、新規検査法などを考案できるような研究能力の養成を目的とする。	教 授 多田達史 准教授 徳原康哲 講 師 太田安彦
		遺伝子検査学特論	遺伝子検査を核酸増幅定量検査と遺伝子変異解析検査とに分け、測定原理及び検査法の問題点を理解する。これらの知識をもとに、臨床的有用性の高い遺伝子検査を構築する。また、遺伝子関連検査の諸ガイドラインを理解し、先天異常の遺伝形式に応じた遺伝カウンセリングの手法について学ぶ。	教 授 岡田 仁
		遺伝子検査学演習	分子生物学及び細胞遺伝学に必須である遺伝子発現と制御、シグナル伝達、細胞周期、腫瘍のメカニズムについて、学部教育をさらに深めて研究する。	教 授 岡田 仁

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
	臨床検査学特別研究	病態機能検査学領域科目（生体機能検査学、病態解析検査学、病理病態検査学、血液病態検査学）又は病因解析検査学領域科目（病原因子検査学、生体防御検査学、生体化学検査学、遺伝子検査学）の中から希望する研究科目を選択し、当該科目における研究課題の解決方法等について、担当教員の指導のもと修士論文の作成に向けて研究を行う。	
	病態機能検査学領域	SLE などの自己免疫疾患でメタボリックシンドロームやインスリン抵抗性の頻度が高かったり、逆に非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) といった生活習慣病患者の血清から自己抗体が検出されたり、自己免疫現象と代謝異常との関連がにわかに注目を浴びている。また、NASH 患者においては活性化された脂肪細胞から B lymphocyte activating factor (BAFF) の産生が促進されることも最近報告されている。今回、NASH 患者における自己免疫現象とインスリン抵抗性との関連に着目し、客観的に評価できる血清パラメーターを検索していく。	教 授 樋本尚志
		発癌機構について、形態学的、生化学的、分子生物学的変化を含めた分子病理学的手法を用いて解析していく。人体病理材料を用いる場合は、免疫組織化学、免疫細胞化学や Real-time PCR 等の分子病理学的手法を用いて、病的状態における組織、細胞の形態学的変化や分子レベルでの変化について観察を行い、発癌のステップについての解析を行い研究する。また、病理組織学的な癌の早期診断や鑑別診断への応用についても探求する。以上の特別研究を通して、病理病態学的な知識や解析方法を修得し、その理論的な構築をはかり病理病態検査学における研究能力を養う。	教 授 平川栄一郎
		がん克服に向け、本研究はがん微小環境における細胞間相互作用、細胞のセンサーである一次繊毛による平面内細胞極性制御、そして細胞生存の鍵となるオートファジー活性制御という三つの重要な側面から分子レベルでのがん進展メカニズムを深く探求する。特定の遺伝子変異やシグナル伝達異常の解析を通じ、細胞生物学的理解に加え、病理組織学的特徴との関連性を明らかにし、がんの悪性度や進展様式を病理学的に解明することを目指す。これらの研究を通じて、革新的な検査技術や診断法の開発を推進するとともに、得られた知見を臨床病理診断に応用展開し、がんの早期発見や個別化治療に貢献できる研究能力を修得する。	教 授 水津 太
		臨床血液検査学分野における実践的な文献検討をもとに、明確にしようとする個々の課題について、研究を行い、新たな知見を論文にする能力を養う。 主として担当できる分野は、(1)血液細胞内外の抗原発現検索による造血器腫瘍診断の応用研究、(2)白血球機能の基礎的臨床研究、(3)サイトカイン等による血球の増殖と分化の制御・遺伝子発現、(4)血小板の活性化とその検査法応用、(5)検査血液学の方法に関する研究などである。	准教授 池亀彰茂

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
臨床検査学特別研究	病態機能検査学 領域	神経疾患に対する脳波検査や神経伝導検査および誘発脳波を用いた早期発見や早期診断を目的とした解析を行う。脳波検査では関連病院で記録されたてんかん患者や神経疾患患者のデータを用いて、コンピュータを用いた脳波解析を行う。また、神経伝導検査や誘発脳波については、超音波検査や筋電計を併用した神経疾患の病態解析を行い、加えて関連病院における手術前後での形態および神経機能の変化について解析を行う。以上の特別研究を通して、生理機能検査法を用いた神経生理学における研究能力を養う。	准教授 大栗聖由
		寿命を決定する因子について近年多くのことがわかってきた。その中のひとつであるインシュリンシグナル経路は進化的に保存性が高い。この経路上にある転写因子 FOXO ファミリーの生理機能について検討する。特に血管系と神経系での役割について、欠損マウスを用いた形態学的、生化学的、分子生物学的な手法により明らかにする。以上の特別研究を通して基礎的な研究能力を養う。	教 授 古山達雄
		体液を循環させて生命の恒常性を維持するためには心臓及び血管・リンパ管が正常に発生し維持される必要がある。このように循環系が秩序正しく発生し維持される分子機序について、形態学的な分析を中心に分子生物学的・生化学的手法を取り入れて研究を行う。特に遺伝子組換えマウスを利用した血管・リンパ管の新生・維持に関する分子メカニズムの解明が主たる研究テーマである。以上の特別研究を通して、生命科学分野における基礎的な研究能力を養う。	講 師 新美健太
	病因解析検査学 領域	感染症を引き起こす病原細菌は病原性を発現するために必要なさまざまな病原因子や、予防や治療として用いられる消毒薬や抗菌薬に対する耐性因子をもっている。そのなかで、研究対象として、病原細菌が針状の III 型分泌装置を用いて宿主細胞に直接注入するエフェクタータンパク質や病原細菌が菌体外に分泌する外毒素などの病原因子、あるいは、消毒薬や抗菌薬に対する耐性に着目し、現在その作用機序等の実態がまだ解明されていないものにつき、研究を進める。そのような研究活動を通じて、病原因子や薬剤耐性に関する基礎的研究能力を養うとともに、感染症検査、予防、治療に応用することのできる未知の知見を得ることを目的とする。	教 授 奥田 潤
		ヒトでは新生児期のみ生理的黄疸を認め、それを逸脱する病的黄疸では核黄疸（ビリルビン脳症）が発症することがある。早産児では医療技術の進んだ現在でも発症予防が困難とされており、この問題を解決するための新生児黄疸管理に関する基礎的研究を進める。ビリルビンの光化学反応や抗酸化作用などに関して生化学的、分子生物学的手法を用い研究活動を行い、これらの研究活動により病態生理の理解を深め、論理的な思考力や基礎的研究能力を養う。	教 授 岡田 仁

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
	臨床検査学特別研究		
	病因解析検査学 領域	末期腎不全患者にとって透析治療は欠かせないものであるが、透析治療はその治療の特性から、体内に蓄積した尿毒素等の老廃物を除去する際に、生体に必要な物質の喪失、蓄積およびその他多くの副作用を有することが知られている。このような透析治療の副作用に着目し、生体防御の観点から研究を進め、透析患者にとってより良い透析治療の提案と生体防御機構の回復を目指す。加えて、これらの研究活動により、病因解析検査に関する理解を深め、論理的な思考力や解析力を養う。	准教授 宮川朱美
		近年、レムナントリポ蛋白などの動脈硬化惹起性リポ蛋白質が注目されている。特に粒子径が25.5nm未満のsmall dense LDLは高中性脂肪血症との関連性が強く、大型の異常VLDL代謝が注目されている。一方、リポ蛋白代謝と血小板などの血液細胞機能との関係も研究されてきている。臨床化学検査学領域における分析技術を用いて、糖・脂質代謝、動脈硬化に関連する疾患の予防・早期発見、治療につながる新規臨床検査項目に関する研究を行い、分析技術的研究開発を目指す。	教 授 多田達史
		人体において蛋白質やアミノ酸は必要不可欠な構成成分であり、様々な疾患において体内の濃度が変化する。また、種々のアミノ酸代謝経路の異常により血中や尿中のアミノ酸濃度が著しく上昇し、中枢神経系等に重大な障害を与えるため、アミノ酸の代謝異常を早期に発見し治療することが重要である。本研究では、体内の各蛋白質やアミノ酸の変動を早期に発見することを目的とし、生化学実験および分子生物学実験により、蛋白質やアミノ酸を検出・測定する新規臨床検査法の開発を目指す。	准教授 徳原康哲
		病原微生物は生体に侵入後、定着、増殖、宿主細胞内への侵入・増殖などの過程において、様々な病原因子により病原性を発揮する。例えば、日和見感染起因菌の一つである緑膿菌は、べん毛、IV型線毛、外毒素、エフェクター分子などの病原因子をもつ。本特別研究では、病原微生物がもつまだ詳細な作用機序が明らかとなっていない病原因子に着目し、形態学的手法、生化学的手法、分子生物学的手法などを用いて、作用機序の解析を進めることで、新たな予防法や検査法に繋がる遺伝子や蛋白質を探索する。	講 師 末澤千草
		近年の糖尿病治療の選択肢の1つに、DPP-4阻害剤による投薬治療が登場した。この阻害剤は可溶型DPP-4の値を下げ、インクレチンであるGIP、GLP-1などの寿命を延ばし、インスリン分泌を促す効果がある。また、DPP-4は糖尿病以外の疾患でも増加することが知られている。しかしながらその機序についてはいまだ不明な点が多い。本特別研究では、DPP-4分泌の機序を明らかにし、DPP-4増加疾患の治療の一助となるシステムの開発を目指す。	講 師 太田安彦

大学までの交通案内



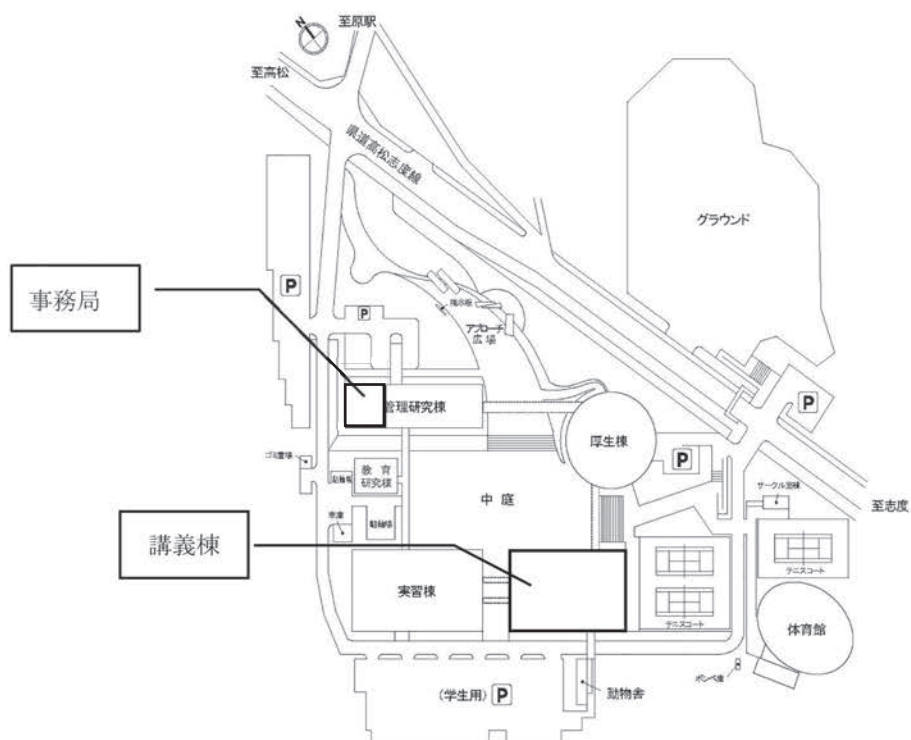
■ 西方面から

高松から 国道11号 車で30分
ことんでん志度線原駅下車 徒歩10分

■ 東方面から

JR高徳線 志度駅から 車で5分

入学試験会場案内図





香川県立保健医療大学

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281番地 1

TEL 087-870-1212

ホームページ

<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>